

砧地域ご近所フォーラム 10年の歩み

砧地域ご近所フォーラム 2021 実行委員会

小泉 孝夫、寺田 友明、吉岡 一樹、山本 恵理

(地域づくり 顔の見える関係づくり)

1. はじめに

砧地域ご近所フォーラムは、いつまでも安心して暮らせる砧地域を目指して顔の見える関係づくりを進めていこうと、平成22年に始まった。医師・歯科医師・薬剤師などの医療関係者、高齢・障害・子育ての支援者、大学、行政、その他砧地域で活動している多彩な人材で構成された実行委員会が、地域を支える各種団体や住民の協力を得て発信し続ける形は、砧地域ご近所フォーラムならではの特色である。回数を重ねるにつれ顔の見える関係は拡がりまた深まり、連携についての意識も変わっていった。

令和2年3月14日に記念すべき第10回を開催すべく準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期せざるを得なかった。現在、令和3年3月20日開催に向けて準備しているところではあるが、これまでと同じ形で実施するのは困難な状況である。それでも積み上げてきた関係を後退させないために、これまでの10年の歩みを振り返ってみたい。



2. 取り組み

砧地域ご近所フォーラムは、当初は高齢者のみを対象としていたが、今では世代や背景を超えてつながることができる場になっている。これまでの開催状況は以下のとおりであるが、「特別企画」や「ご近所カフェ」「フードドライブ」など、趣向を凝らした新たな取り組みが加わっている。

	開催日	参加者数	テーマ
第1回	平成22年9月18日（土）	約250名	認知症を地域で支える
第2回	平成24年2月18日（土）	約225名	災害時 高齢者を支える地域を目指して
第3回	平成25年3月16日（土）	約230名	災害時にこそ発揮される地域の連携
第4回	平成26年3月29日（土）	約275名	高齢者を優しく見守る地域のわ
第5回	平成27年3月14日（土）	約320名	孤独を見守り孤立を防ぐ近所のわ
第6回	平成28年3月19日（土）	約350名	見つけよう つなげよう 近所のわ
第7回	平成29年3月18日（土）	約400名	わたしからひろげよう地域のわ
第8回	平成30年3月17日（土）	約465名	笑顔でひろがる5つのわ
第9回	平成31年3月16日（土）	約425名	アートでつながる心（ハート）のわ

3. 考察と今後の課題

平成22年当時は、医療関係者と高齢者介護関係者が協働してフォーラムを開催することだけでも新しい取り組みであった。ところがそこに障害福祉関係者が、子育てや学校関係者が、地域のさまざまな活動団体が徐々に加わっていったことで、地域まるごとつながることができる場に発展していく

た。今や砧地域では、異なる領域の関係者同士が顔の見える関係を構築して協力しあっている光景が珍しいものではなくなっている。

令和元年、顔の見える関係ができたところで今度はコラボレーションしていこうと進めていた矢先、起きたのがコロナ禍であった。これまで会って交流してつながることで活動を拡げてきたため、感染拡大予防と両立させる新たな発想が必要である。リモート開催が可能かなど、実行委員会では現在も協議を継続している。



<助言者コメント>

木本 義彦（世田谷区北沢総合支所保健福祉センター所長）

砧地域ご近所フォーラムといえば、「地域まるごと」の実践例として知られており、その先進的な取組みは他の地域にも良い刺激となっています。イメージキャラクターまで作り上げて親しみやすく、「一緒に輪になろうよ」と呼びかけているようです。

高齢や障害といった縦割り的な属性ではなく、同じ地域に住む者、働く者として「顔が見える関係」を構築して地域をより良くしていこうというコンセプトは、とても重要です。さらに、時々の社会状況に応じたテーマとしてきたことも発展的であり、手弁当で集まる実行委員会での熱い議論が厚みを与えてるものと思います。

「会って」、「交流して」、「つながる」ことで砧地域での取組みを深めてきた歴史の中で、コロナ禍により記念すべき10回目が延期となったことは残念でした。しかし今後、どのように感染拡大予防と両立させていくか、実行委員会でも協議を継続しているとのことです。

同じように、様々な制約の中で活動継続に試行錯誤している団体は、区内に数多くあります。ウィズコロナ時代の新しい生活様式の中で、どのように「つながり」を確保して、地域で安心して暮らし続けることができるのか。

これまでの蓄積と様々な知見を持ち寄り、是非、新たな発想なども示唆いただき、砧地域のみならず世田谷区全体の取組みにも寄与していただくことを期待します。